日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の１　TEL &FAX　52-3097　2015年９月20日（日）1509号(1)

民報ゆうばり　戦争させない！9条壊すな！

「民主主義とは声を届ける不断の努力！」

南空知９・１２総がかりで戦争法廃案へ～３００人！
夕張から高校生筆頭に３３名が参加！

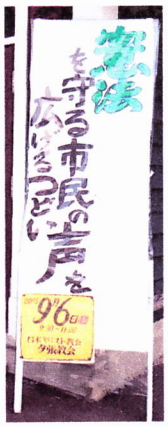
12日、戦争法を廃案にする夕張連絡会（夕張労連・新婦人夕張支部・ゆうばり女性9条の会）が呼びかけた岩見沢集会に・高校生や二十歳の若者を先頭に33名が参加しました。

民主党や社民党から挨拶やメッセージがあり、共産党はたやま和也衆議院議員の挨拶がありました。

夕張から事務局の熊谷泰昌さんが、「すべて共同の運動で、夕張市議会から戦争法の慎重審議を求める意見書が採択される見通しになった」と元気よく報告し、参加の高校生も300人を超える参加者の前で、「安倍さんはおかしい！僕たちは戦争なんかいきたくない！」と思いを訴えました。

小雨交じりの天候でしたが、参加者の熱い訴えの声が岩見沢の繁華街に響き渡りました。

会場には、中学生や若い親子づれなど、幅広い年代の人々が集まり、バルーン・アクションや工夫されたゼッケン、プラカードなどで色華やかに会場を埋め尽くしました。



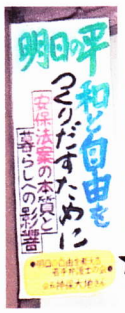
9月6日、鹿ノ谷の夕張キリスト教会において、『憲法を守る市民の声を広げるつどい』が「明日の平和をつくりだす夕張の会」の主催で開催されました。

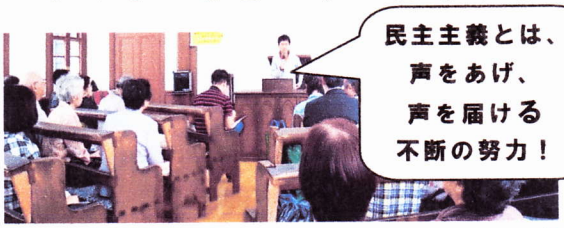
共同代表の渡辺輝夫牧師は、「この夕張から、皆さんと一緒に平和を求める声を発信していきたい」とあいさつしました。

次に神保大地弁護士が『明日の平和と自由をつくりだすために～安保法案の本質と暮らしへの影響』と題して講演し、締めくくりに「民主主義とは不断の努力。声をあげる、声を届ける不断の努力をーいますぐ行動を！」と提起がありました。

最後に事務局が用意した、「安全保障関連法案の国民への十分な説明と徹底審議を求める意見書」採択についての要請書に、参加者それぞれが一言メッセージを添え、一番身近な夕張市議会にあてて友人知人を誘い、市民の声を市議会に届けようーと行動が提起され、議会事務局に、FAXや郵送で届けることを確認しました。

議会事務局には、9人の議員あてに43人の方から一言メッセージとともに、要請書が送られ、願いどおりの意見書が採択されることになりました。





民主主義とは、声をあげ、声を届ける不断の努力！

☆『安保関連法案、慎重審議』の意見書18日、採択されることになりました！☆

「政権による国民生活への同時多発テロ」すべては『戦争する国づくり』へ向かうため

9月2日（水）1時30分から清水沢公民館でゆうばり女性9条の会が「学習のつどい」を開きました。

開会に先立ち、2001 年に広島の中学生がつくった平和宣言に曲をつけて 2004 年から歌われるようになった『ねがい』を参加者みんなで歌いました。これまでも「学習のつどい」で歌い継いできました。

講師は、ジャーナリストで和光大学の教授でもある竹信三恵子さんです。「労働法が改悪され派遣で労働者が企業に都合よく働かさせられ、都合よく解雇される。そのような労働環境で貧困と格差社会が広がっていく。経済界からは、奨学金を返せない若者を経済的徴兵へという話さえ出ている。

教育の分野でも新指導要領で教育の中身が変えられ、福祉政策では介護報酬が引き下げられた。こうして安倍政権の政策は、国民困窮化へと追い込み、経済を成長させれば防衛費を増やし、海外へも支援できるとしている。安保法制とつながっていることが見えてくる。

安保法制は廃案へと運動が大きくなっているこのとき、視野を広げ『戦争する国づくり』につながる政策の一つ一つをつぶしていこう。」と力強く話されました。

日本共産党夕張市委員会へのご連絡・ご相談はお気軽にどうぞ～　Tel/Fax：0123-52-3097　e-mail：jcp.yubari@gmail.com

第27回夕張労連 定期大会終了！

９月６日、夕張労連の定期大会がありました。来賓として、道労連竹田事務局次長の挨拶があり、議案はすべて承認され、新役員が選出されました。

８月30日の国会前デモに参加した代議員の生々しい報告が印象に残る定期大会で、大会決議・特別決議も採択され、無事終了しました。

くずさんの 夕張歴史散歩（33）

土佐の「新聞の葬式」デモ　その３

死亡広告で発禁処分に抗議

前後５回わたる停刊を受けた「高知新聞」は323号をもって７月14日遂に発禁となります。次の日の「高知自由新聞」には、黒枠付きの死亡広告が載ります。

これまたかなりふるった文言で、しかも「三千六百余万の同胞諸君」と、当時の日本総人口を対象にしています。

翌日16日の紙上には、「当日午後一時を期して新聞葬執行を広告」しています。

いよいよ「新聞葬」の葬列が行く

「この葬儀を発案した横山又吉、大きな筆をくくりつけた忌中笠をかぶって喪主となり、棺には発禁になった新聞を詰め込み、『投身成仁　視死如帰』（身を殺して仁を成す、死を視ること帰するがごとし）と書いた大旆を先頭に弔旗二十旆、社員は忌中笠、自由党員は麻上下でこれに続き、陽暉楼の芸妓も辻々の車夫も喪装で参列し、着列帳に記したものだけでも二千二百二十七人におよび、見物のやじ馬も加わってその数五千とも算せられた。」（『日本の百年』より）

葬列は、高知新聞社から東に進み青柳橋を渡り、五台山に着いた時、行列はまだ遠く高知の市中に尾を引いていたと伝えられています。

五台山の紅葉谷（社主の深尾重行の持山）で棺を埋め、民権坊主の名をとった永国寺の野村随光師が導役を勤め式を終えています。

この光景、想像してみて下さい。いかなる弾圧に懸命の当局も、葬式には手がつけられない。しかも芸妓や車夫も、野次馬までの葬列は、まさに民衆の抵抗の姿です。

怒りを皮肉に代え、風刺に訴え笑い飛ばす民権運動の底力を見せてくれました。

紙智子「国会かけある記」

日本共産党参議院議員　紙智子

住民の苦難と政治

網走市内のほ場で、ジャガイモの害虫シロ・シストセンチュウが発見されたとの連絡が入り、以前、センチュウが発見された時のことがよみがえりました。センチュウは〇・六ミリ程度のシストと言う硬い殻に守られて一〇年以上も生き続けます。土は移動できないし、農薬などでも簡単に駆除できません。

ジャガイモは、北海道の重要な基幹作物です。早速、政府に被害状況の調査、まん延防止策、営農支援を求めました。

また、日本に存在しないセンチュウが何故、発見されたのか。侵入経路の解明が急がれます。同時に抵抗性品種（この害虫を寄せつけない品種）の開発が避けて通れません。イモの原原種を生産している独立行政法人種苗管理センターから話を聞きました。イモの増殖は種と違って増殖率が低いので、抵抗性品種の開発には一〇年ぐらいかかると言います。林芳正農水相は「平成三十二年度を目途に進めている、加速していきたい」と答えました。そんなに時間がかかるのかと思いながら、被害が広がらないよう願い、農家への支援強化を求めました。

関東各地に大きな被害をもたらした大雨洪水災害調査で先週末、茨城県に入りました。台風十八号の影響で発生した雲が鬼怒川に沿うように南北に停滞したため水位が上昇し、堤防の決壊、溢水で大きな被害が発生しました。

安倍総理は、被害対策会議は一〇分で終わり、その後、戦争法の採決日程の打ち合わせに一時間以上をついやしたそうですが、苦難に心を寄せない姿勢に怒りを覚えます。